

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	基幹管路更新事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	耐震性能を持たない、口径450mm以上の基幹配水管路	事業の目的(意図)	老朽化した基幹管配水管(口径φ450mm以上)の更新を行い、耐震化率の向上を図る。
事業の内容(手段)	楠本浄水場北東部の基幹管路と布設済の配水本管への接続工事を行い、老朽化した既設配水本管を廃止する。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
	基幹管路耐震化率	基幹管路の総延長に占める耐震管の割合	%	目標値	19.6	19.7	21.6
実績値				21.9	22.6		
達成度(%)				111.6%	114.8%		

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	26,028	21,759	0	0
うち一財		千円					
(決算額)	直接事業費	千円	18,964	23,697		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円					
	正職員人件費	千円	8,060	3,684			
	人工数	人	1.10	0.50	0.00		
	支出コスト	千円	決) 27,024	決) 27,381			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	耐震性能を持たない基幹管路を更新することにより、主要なライフラインの機能強化が図られた。		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 対象の管口径が大きいことから周辺地域への協議と安全対策に時間を要す。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	一の井手浄水場休止により導水管を廃止する予定であったが、3年間は資産として残す。楠本系基幹管路については30年度の幹線管路工事完了後に廃止とする。
	事務事業の方向性	計画的な事業の実施により、耐震化率の向上を今後も図っていくが、配水池の耐震化等を踏まえ将来的な計画を総合的に判断する必要があり、今後は配水池の耐震化に合わせた基幹管路の更新に計画を変更し、限られた予算を有効に活用していく必要がある。		評価責任者コメント	事務事業の方向性のとおり、計画的な事業進捗を図ること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
水道施設の配置や規模の見直しを行う施設最適化や、施設の長寿命化の指標となる「周南市水道事業施設整備基本計画」を基に、事業計画自体の見直しを行った結果平成30年度同様に平成31年度は事業を実施しない。	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	基幹配水管更新事業	老朽化した基幹配水管の布設替えを行い、約1.0%の耐震化率向上を図ります。	楠本浄水場系の基幹管路の布設済配水管口径φ500への接続工事として約9.7m布設しました。	23,697	0.50	0.00	
②				否			
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	幹線管路更新事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	補助
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	配水管として管網をなしている管路で、主要な幹線を形成している管路	事業の目的(意図)	基幹管路に続く主要な幹線管路の一連の耐震化を図り、災害時にも供給可能な管路の構築を目指す。
事業の内容(手段)	菊川浄水場系から一の井手浄水場への送水管の布設を行う。 楠本浄水場系の幹線管路をダウンサイジングして耐震管への布設替を行う。 管路の整備方針として、配水の upstream から downstream へ更新を進める。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度	
					目標値	18.5	20.0	21.5
					実績値	19.1	20.1	
					達成度(%)	103.2%	100.6%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	183,492	144,819	164,916	220,110	302,757
(予算額)	うち一財	千円					
直接事業費	千円	167,871	176,935		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円			年次計画により、更新管路延長が異なるため。	年次計画により、更新管路延長が異なるため。	
正職員人件費	千円	8,792	5,894				
人工数	人	1.20	0.80	1.25			
支出コスト	千円	決) 176,664	決) 182,829				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	耐震性能を持たない基幹管路を更新することにより、主要なライフラインの機能強化が図られた。		課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 管路の経年化や老朽化、災害時に影響の大きい管路及び財政状況を総合的に判断し更新管路を選定する必要がある。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	幹線管路は、基幹管路に次ぐ主要な配水管としての重要性から、災害等に備えて耐震化の早急な促進に向けた管路更新の取り組みが求められている。		評価責任者コメント	事務事業の方向性のとおり、計画的な事業進捗を図ること。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
「周南市水道事業施設整備基本計画」及びマッピング等のデータを基に老朽化した管路更新の計画を立案した。(55,194千円 増額)	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	幹線管路更新事業	基幹管路から主要な幹線を形成している管路について、耐震管へ布設替えを行います。	楠本浄水場系幹線管路を約160m更新しました。また、北山から一の井手浄水場まで送水管を1177m布設しました。	176,935 否	0.80		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	重要給水施設管路更新事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	補助
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	災害時の重要給水施設に供給する配水管の耐震化	事業の目的(意図)	災害時の重要給水施設に供給する管路の布設替えを行い耐震化を図る。
事業の内容(手段)	災害時の重要給水施設である周陽小学校及び太華中学校へ給水する配水管の布設替えを行い、耐震化を図る。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	18.5	20.0
				実績値	19.1	20.1	
				達成度(%)	103.2%	100.6%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	28,728	46,764	14,040	38,280	25,300
(予算額)	うち一財	千円					
直接事業費	千円	27,675	44,264		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円			年次計画により、更新管路延長が異なるため。	年次計画により、更新管路延長が異なるため。	
	正職員人件費	千円	5,862	5,158			
	人工数	人	0.80	0.70			
	支出コスト	千円	決) 33,537	決) 49,422			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	災害時に拠点となる病院、福祉避難所、指定避難所及び給水拠点の合計29箇所と、市役所へ給水する管路の耐震化を計画的に進めている。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 配水池から重要給水拠点までの管路耐震化が求められているが、配水池から離れた重要給水施設までの一連の管路耐震化には期間を要す。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由
	事務事業の方向性	厚生労働省から、重要給水施設までの管路耐震化の促進に向けた水道事業者の取り組みが求められている。	評価責任者コメント	災害時に拠点となる病院、福祉避難所、指定避難所、給水拠点及び市役所へ給水する管路の耐震化を計画的に進める必要がある。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など) 重要給水施設となる徳山小学校周辺の配水管更新を約640m行い耐震化を図る。 耐震化を効率的に実施するよう施設周辺も合わせ更新を実施するに年度ごとの増減がある。(24,240千円増額)	備考
---	----

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	重要給水施設配水管路更新事業	災害時の重要給水施設に供給する管路の耐震化を図ります。	周陽小学校及び太華中学校へ給水する配水管約760mの布設替えを行い、耐震化を図りました。	44,264 否	0.70		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	その他管路耐震化事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	経年化や老朽化した配水管及び漏水発生が多い管路	事業の目的(意図)	硬質塩化ビニル管や鋳鉄管など、老朽化した配水管の布設替えを行い安定給水を図る。
事業の内容(手段)	漏水発生が多い硬質塩化ビニル管や老朽化した鋳鉄管などを対象とし、基本として口径φ100mm以下は配水管用ポリエチレン管、口径φ150mm以上はダクタイル鋳鉄管を使用し、配水管路の耐震化率向上を図る。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度	
					目標値	18.5	20.0	21.5
					実績値	19.1	20.1	
					達成度(%)	103.2%	100.6%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	279,396	348,793	286,092	276,686	355,727
(予算額)	うち一財	千円					
直接事業費	千円	294,472	318,924		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円			年次計画により、更新管路延長が異なるため。	年次計画により、更新管路延長が異なるため。	
正職員人件費	千円	37,368	32,419				
	人工数	人	5.10	4.40			
支出コスト	千円	決) 331,840	決) 351,343				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	地震や集中豪雨などの災害時において安定した給水を確保するため、管路の耐震化を図り、機能強化を高め安定給水が行える管路を構築していく必要があります。		課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 毎年の更新延長は、平均で約10Km程度で、耐震化率の改善は約1.5%であり、全管路の耐震化には長期の期間を要す。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	財政の健全化を考慮しながら、限られた建設改良費の予算の中で事業を実施することとなるが、優先順位を総合的に判断し計画的な管路の耐震化を実施することにより安定給水を確保する。		評価責任者コメント	事務事業の方向性のとおり、事業を進めていくこと。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
全体の予算を考慮しながら、更新計画を立案するために予算の増減が発生する。(9,406千円減額)	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	その他の配水管更新事業	硬質塩化ビニル管や鋳鉄管など、老朽化した配水管の布設替えを行います。	約6,800m配水管の布設及び布設替えを行い、管路の耐震化率の向上を図りました。	318,924 否	4.40		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	鹿野地区管路耐震化事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	経年化や老朽化した配水管及び漏水発生が多い管路	事業の目的(意図)	統合された鹿野地区における配水管の布設状態を把握検討し、耐震管への布設替えを行い安定給水を図る。
事業の内容(手段)	鹿野地区の経年劣化した配水管を耐震管である配水用ポリエチレン管に布設替えし漏水防止、及び災害に強い管網の構築を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度	
					目標値	—	27.8	28.3
					実績値	—	28.2	
					達成度(%)	—	101.4%	

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	—	49,788	26,352	17,930	20,000
(予算額)	うち一財	千円	—				
直接事業費	千円	—	15,835		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	—		年次計画により、更新管路延長が異なるため。	年次計画により、更新管路延長が異なるため。	
	正職員人件費	千円	—	5,158			
	人工数	人	—	0.70			
	支出コスト	千円	—	決) 20,993			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	簡水統合により、本年度より水道事業となったため、財政等を考慮しながら有効的な更新事業計画の再構築を行う必要があります。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 鹿野地区の配水管等の資産台帳が整備途中であり、今年度よりマッピングシステムの精査を行う為、耐震化率が不明確であり管路更新計画の見直しが必要である。	
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	経年劣化と経済的効果等を総合的に判断して整備を行っていくため、計画延長は今後見直していく。
	事務事業の方向性	財政の健全化等を考慮しながら、事業を実施することとなるが、計画的な管路の耐震化を再検討しながら更新を実施することにより安定給水を確保する。	評価責任者コメント	投資回収を念頭に、事務事業の方向性のとおりに進める必要がある。	

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
鹿野地区の配水管路の重要度、老朽化度等を考慮しながら、更新を実施する管路を決定するために年度ごとで増減が発生する。(8,422千円減額)	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	鹿野地区配水管整備事業	塩化ビニル管を中心に、老朽化した配水管の布設替えを行うとともに耐震化を図ります。	経年劣化した合の川地区・鹿野上堤地区及び鹿野下天子地区の配水管536mの布設替えを行いました。	15,835 否	0.70		
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	熊毛未普及地区整備事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	配水管整備事業により布設された管路以外の給水要望のある地域の配水管整備	事業の目的(意図)	配水区域内の未普及地域の給水要望を精査し、配水管の整備を行う。
事業の内容(手段)	老朽化した水道施設の更新を行い、安定した給水を行うとともに地域の給水要望を集約し、未普及地域の解消を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
				目標値			
				実績値			
				達成度(%)			

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	—	100,656	20,088	37,860	20,000
(予算額)	うち一財	千円	—				
直接事業費	千円	—	32,969		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	—		給水要望を集約し布設箇所を検討決定しているため。	給水要望を集約し布設箇所を検討決定しているため。	
正職員人件費	千円	—	5,158				
人工数	人	—	0.70	0.50			
支出コスト	千円	—		決) 38,127			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	簡水統合により、本年度より水道事業となったため、財政計画等を考慮しながら更新事業計画の再構築を行うことが必要です。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 給水申し込みによる水需要を考慮して、給水管末での水質保持や配水管布設の経済的効果等を総合的に判断して整備を行っていくため、給水要望解消には長期の時間を要する。
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由 指標値としての設定はないが、給水要望等の条件を総合的に判断し整備を行っていったが、早急な給水要望も少なく経済効果や水質保全などが困難で、既設管を計画的に延長整備していくことが困難である。
	事務事業の方向性	財政の健全化等を考慮しながら、事業を実施する必要があり、計画的な管路整備を再検討しながら更新を実施することにより安定給水を確保する。	評価責任者コメント	給水戸数を増やすことは重要であるが、投資回収等も踏まえ、事務事業評価のとおり進める必要がある。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
井戸枯れや水質悪化による給水要望を集約し、課内で協議の上布設箇所を決定するため、年度により増減が発生する。(17,772千円増額)	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	熊毛未普及地区配水管整備事業	老朽化した水道施設の整備と未普及地域の配水管の整備を図ります	勝間ヶ丘団地のポンプ設備の整備と未普及地域の給水要望を精査し配水管を220m布設した。	32,969	0.70		
				否			
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	漏水防止対策事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	徳山地区及び新南陽地区の配水管及び給水管	事業の目的(意図)	漏水防止により安定給水を確認し、給配水管の漏水を早期に発見し修繕を行うことにより、有収率の向上を図る。
事業の内容(手段)	配水管の中で約40%を占めるビニル管路と、口径40mm以上の連合給水管の路面音聴及び量水器までの戸別音聴を実施することにより、漏水を発見する。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
					目標値	89.8	90.2
有収率		配水量に対して料金収入のあった水量の比率(有収水量/配水量)	%	実績値	91.7	91.9	
					達成度(%)	102.1%	101.9%

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	13,992	12,928	14,278	14,577
うち一財		千円					
(決算額)	直接事業費	千円	9,612	9,774		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円					
	正職員人件費	千円	17,585	17,683			
	人工数	人	2.40	2.40	2.25		
	支出コスト	千円	決) 27,197	決) 27,457			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	配水管漏水の大半を占めているビニル管について、計画的に布設替えを行っているため、漏水件数は減少傾向にあるが、個人資産である給水管については平均している。		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 漏水調査により有収率は改善しているが、調査後新たに発生する漏水の復元により有収率の改善率が限られ、対費用効果が低い。
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	有収率の向上は水道事業において継続的な課題である。無効水量減少に向けた取り組みとしての漏水調査事業は、調査方法や調査区域の選定等を精査し、今後も継続して行う事業である。		評価責任者コメント	事務事業の方向性のとおり、進める必要がある。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
旧市内を年度ごとに東西に分けて漏水調査を行うために給水戸数及び路面音聴調査の距離が異なるための増減。	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	漏水調査業務委託	硬質塩化ビニル管を対象とし、約143Kmの路面音聴調査を実施し、有収率0.4%の向上	調査の実施により配水管で26件、給水管で112件の漏水を発見修理しました。併せて、軌道敷下の漏水調査を行い、漏水は確認されませんでした。	9,774	2.40		
				可			
②							
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	給配水管維持管理事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・公道上の給配水管及び付属設備 ・宅地内における量水器までの給水装置 ・水道工務課所管の配水施設 ・個人の給水装置の漏水(業者紹介のみ) 	事業の目的(意図)	漏水発生による有効水量の低下及び、断水・道路陥没等の二次災害を防止するため早急に修理対応を行う。また配水設備の修繕を行うことにより安定した供給に努める。個人所有部分の給水装置修繕についても業者を紹介することにより、迅速な修理対応を行い市民サービスの向上を図る。
事業の内容(手段)	徳山地区・新南陽地区それぞれ1者と契約し、24時間の修繕体制を確立する。修繕業務が発生した場合は速やかに業務を履行する。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
				目標値			
				実績値			
				達成度(%)			

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	66,965	67,201	67,432	70,982	70,982
(予算額)	うち一財	千円					
直接事業費	千円	58,788	60,977		対30年度増減理由	対31年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円					
正職員人件費	千円	35,902	33,893		人件費及び消費税の増加分を見込んだ増額。		
人工数	人	4.90	4.60	5.10			
支出コスト	千円	決) 94,690	決) 94,870				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	配水管については、管路耐震化事業により老朽管の更新、漏水多発管路の布設替を行っているため、修繕業務発生件数は減少傾向にあるが給水管については個人所有のため布設替は困難であり漏水件数は横ばい状態である。	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 修繕業務の待機や修繕業務を委託する相手が、現状では管工事協同組合に限られるが、職人の高齢化等を考え将来的には業務の委託先を再検討していく必要がある。	
	評価	A	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	給配水管などの修繕体制と修繕業務を行うための事業であり、目標値としての設定はないが、維持管理業務の適正な履行は確保され、市民サービスと安定給水が達成できた。
	事務事業の方向性	給配水管の維持管理における修繕体制の確立は、市民への安定給水を行う上で不可欠であり、今後も継続的に必要な事業である。	評価責任者コメント	徳山地区・新南陽地区の24時間体制の維持は重要であり、事務事業の方向性のとおり、進めていくこと。	

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
人件費の増額及び諸経費等の見直しを実施したための増額。 3,550千円増額	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	修繕業務委託	緊急的な漏水及び修繕に対し迅速に対応するため、24時間体制で人員を確保する。	徳山地区・新南陽地区それぞれ1者と契約し、24時間体制で修繕業務に備えた。	22,901	可	1.50	
②	修繕業務委託	緊急的な漏水及び修繕に対し迅速に対応する。	給配水管及び付属設備の修繕を603件対応した。	38,075	可	4.00	
③							
④							
⑤							

平成30年度(平成29年度事業分)周南市事務事業評価シート

事務事業コード		事務事業名	マッピングシステム更新事業			
担当部・課名	上下水道局水道工務課	評価者(課長)	三原 克美	評価責任者(部長)	井筒 守	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	600502	分野	6都市基盤	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	5水道の安定供給と下水道の充実			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)上下水道施設の長寿命化・耐震化			会計名	11水道事業会計

事業の目的(対象)	公道上の給配水管及び付属設備、宅地内における量水器までの給水装置、水道工務課所管の配水施設、個人の給水装置(業者紹介のみ)	事業の目的(意図)	・定期的にデータの更新を行うことにより、正確な情報に基づく適切な給配水管の維持管理が可能となる。 ・他の地下埋設占有者に対し正確な情報提供を行い、工事による破損事故防止に努める。
事業の内容(手段)	マッピングシステムの運用にあたっては、データの更新を正確に継続的に行うことが大切である。このため、職員で可能な給水台帳のファイリングデータの更新を除き、配水管のデータ更新は業務委託により行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	28年度	29年度	30年度
				目標値			
				実績値			
				達成度(%)			

事業費	項目	単位	28年度	29年度	30年度(予算)	31年度(予算)	32年度(見込)
	直接事業費	千円	1,611	1,730	1,762	1,848	1,848
(予算額)	うち一財	千円					
(決算額)	直接事業費	千円	1,512	1,620		対30年度増減理由	対31年度増減理由
	うち一財	千円				人件費増額分	
	正職員人件費	千円	13,921	15,473			
	人工数	人	1.90	2.10	1.85		
	支出コスト	千円	決) 15,433	決) 17,093			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	マッピングシステムのデータ更新を継続的に行うことにより、管路の耐震化率や経年化率など各種統計値を、迅速に把握することが可能となった。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 業者により更新された布設替等のデータ確認精査を各工事担当者が実施し、正確な情報が反映されたか情報管理が必要である。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	給配水管など施設管理を行う事業であり、目標値としての設定はないが、簡水統合等により管理する範囲が広がったが適切な施設管理を行うことができた。しかし、統合したデータの精査が不完全であり今後も随時修正が必要である。
	事務事業の方向性	マッピングシステムのデータ更新は、正確な情報管理と資産管理のため、継続的に行う事業である。	評価責任者コメント	マッピングシステムの運用にあたっては、データの更新を正確に継続的に行うことが大切であり、維持管理等を含めた生命線である。より正確なデータベースとなるよう取組む必要がある。

【改善】 Action

平成31年度当初予算等での改善結果(平成31年度当初予算への反映など)	備考
人権費及び簡水統合等による熊毛・鹿野地区がマッピングシステムのエリアとして増加したことによる増額。 86千円増額	

【事務事業を構成する細事業(H29年度事業分)】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	給配水管情報管理事業	正確な情報管理を行い、給配水管の適切な維持管理や窓口業務の迅速化を図ります。	給配水管や属性データ等の更新、漏水履歴情報等の入力及び鹿野・熊毛地区のデータ統合を実施しました。	1,620 可		2.10	
②							
③							
④							
⑤							